



**BULLETIN OF FACULTY OF NURSING
HIROSAKI GAKUIN UNIVERSITY**

弘前学院大学

看護紀要

第18巻

Volume 18

2023

目 次

《総 説》

我が国におけるアンガーマネジメントに関する実践研究概況

～対象者，介入方法の現状から今後の課題を考える～…………… 齊 藤 史 恵 1

《研究報告》

「転倒予防トレーニングスリッパ」を使用した歩行訓練によるバランス機能改善効果

―在宅における高齢者を対象とした事例研究― …………… 三 浦 凌 17
佐 藤 厚 子

在宅における高齢者の転倒予防トレーニング

―転倒予防トレーニングスリッパを用いた1年間の介入研究― …………… 佐 藤 厚 子 25
川 村 泰 子
斎 藤 真 澄

弘前学院大学看護学部紀要 投稿規程

(目的と名称)

第1条 弘前学院大学看護学部（以下、本学部とする）は、本学教員の学術研究の奨励およびその成果を発表するために「弘前学院大学看護紀要」（以下「紀要」とする）を定期的に刊行する。

(発行)

第2条 本紀要の発行は、原則として年1回とする。

(投稿資格者)

第3条 筆頭著者は、1) 本学の専任教員、2) 非常勤講師、3) 看護学部紀要編集委員会（以下「委員会」とする）が認めた者、とする。

(投稿論文の受付および審査)

第4条 投稿原稿は他誌に未掲載でかつ投稿中ではない論文に限る。ただし、以下の場合は二重投稿とみなさない。

1) 大学の学士論文、修士論文、博士論文（既に機関リポジトリに全文を公開している論文は除く）

2) 科学研究費報告書、事業報告書

3) 学会・研究会の抄録集として発表した研究を論文とする場合

2 原稿の受付期間は前もって委員会より通知する。

3 提出先は事前に指定する委員会担当者とする。郵送の場合は期限当日の消印有効とする。

4 投稿原稿の採否は紀要委員会および紀要委員会が依頼した査読者（学外を含む）による査読を経て、紀要委員会が決定する。

5 紀要委員会の審査により、原稿の修正、削除、加筆および原稿の種類の変更を著者に求めることがある。

6 原稿の掲載順、印刷様式は委員会が決定する。

1) 投稿原稿受付E-mailアドレス：kango-kiyou@hirogaku-u.ac.jp

(著作権)

第5条 掲載論文の著作権は本学部に帰属し、論文の電子化は了承されたものとする。ただし、著者が当該論文を利用する場合は本学部の許諾を必要としない。

(経費負担)

第6条 原則として無料とする。別刷りは30部まで無料とし、30部を超える部数については自己負担とする。

(著者校正)

第7条 査読を経て、委員会で受理された投稿原稿については著書校正を1回行う。校正の際には委員会からの修正依頼以外の著者による加筆・修正は認めない。

(倫理的配慮)

第8条 人および動物が対象の研究は、当該研究領域の適切な倫理指針に従って計画され、倫理委員会で承認されたものでなければならない。また、本文中にはその旨および承認番号が明記されなければならない。

(利益相反)

第9条 利益相反の有無については、末尾の引用文献リストの前に付記すること。なお、利益相反に関しては「厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest: COI）の管理に関する指針」等を参照すること。

(原稿執筆要領)

第10条 原稿執筆要領は別に定める。

附則

1) 2005（平成17）年10月13日 制定

2) 2020（令和2）年10月1日 一部改訂

弘前学院大学看護学部紀要 執筆要領

1. 論文の種目

- 1) 原著論文 学術上の価値がある新たな研究成果を記述したもの。
- 2) 研究報告 学術上の価値のある新たな研究成果を記述したもので、前掲の「原著論文」と比較すると完成度は劣るが、早く発表する必要があるもの。
- 3) 総説 特定の問題に関する研究について総括し、解説したもの。
- 4) 短報 研究の速報・略報として速やかに公表するもの。
- 5) その他 上記のいずれにも該当しないが、公表する価値のあるもの。

2. 論文の構成・記載様式

- 1) 論文は表紙、要旨、本文、文献、図・表・写真から構成される。
- 2) 表紙には、表題、著者名を明示する。英語表題（すべて大文字）、ローマ字表記で著者名をつける。
- 3) 原著論文および研究報告には400字程度の和文要旨、250字程度の英文要旨を添え、それぞれ日本語および英語のキーワードを3～5語のキーワードを示す。なお、英文要旨は必ずネイティブスピーカーの校閲を受け、その証明書を添付する（様式は任意）。
- 4) 論文の長さは原則として設けないが、必要に応じて紀要編集委員会（以下「委員会」とする）において検討する場合がある。
- 5) 原稿はパソコンを用いて Microsoft Word か、テキストファイル形式で作成すること。ただし、図・表についてはこの限りではない。表紙、要旨、本文、文献は1つのファイルにまとめ、図・表は別のファイルで作成する。
- 6) 和文はA4用紙に1ページあたり1600字（40字×40行）横書き、表題は明朝体12ポイント、本文は明朝体10.5ポイントとする。句読点は「、」「。」を用いる。
- 7) 欧文はA4用紙1枚につき26行ダブルスペース、字体は Times New Roman とし、必ずネイティブスピーカーの校閲を受け、その証明を添付する。
- 8) 繰り返し出てくる名称・用語は初出時に正式名称・用語を示し、続けて（ ）内に略称を示す。
- 9) 外来語はカタカナで、外国人名、適当な日本語がないものは原語で示す。
- 10) 度量衡の単位は原則として国際単位（SI）を使用する。
- 11) 図・表・写真は番号を付け、本文とは別に一括し、本文の原稿の右欄外にそれぞれの挿入希望位置を指定する。
- 12) 利益相反（Conflicts of Interest: COI）の有無については、末尾の引用リストの前に付記する（例：本研究には利益相反として申告すべき内容は含まれていない）。開示すべきCOIを含む場合は、それを明記し謝辞には関係団体名を記載する。

3. 引用文献の記載様式

- 1) 文献は、最後に一括して引用順に掲載し、本文中の引用箇所の肩に1) -3) と表記する。
- 2) 紙媒体

〈雑誌〉 著者名：論文題名、雑誌名、巻、頁-頁、発行年。

【例】 弘前花子、青森一郎、学院次郎、他：看護学実習における順序性と教育効果、弘前学院大学看護学部紀要、17, 24-32, 2019.

〈書籍〉 著者名（訳本の場合は訳者名）：書名（版表示）、編集者名、頁-頁、発行地：出版社、発行年。

【例】 城東澄子：青森県の健康活動（第2版）、黒石三郎（編）、52-77、弘前市：津軽総合図書、2018.

3) 電子媒体 Digital Object Identifier : DOI が付与されている場合には明記する。

〈DOIがある学術論文〉 著者名 : 論文題名, 雑誌名, 巻, 頁-頁, 発行年. DOI : 00.0000 (参照年月日)

【例】 常盤多摩子 : 健康教育指導実践能力尺度の信頼性・妥当性の検証, 看護科学研究, 15, 17-25, 2018.
DOI : 10.7655 (参照2019年 5月31日)

〈DOIのない学術論文〉 著者名 : 論文題名, 雑誌名, 巻, 頁-頁, 発行年. <http://www.xxxxxx> (参照年月日)

【例】 浅瀬石次郎 : 看護実践における情報リテラシー教育の評価, 看護実践教育, 12, 5-14, 2019. <http://www.kango.or.jp/education.pdf> (参照2018年12月17日)

〈DOIがある書籍〉 著者名 (出版年) : 書籍名. DOI : 00.0000 (参照年月日)

【例】 Misshell Kaur (2017) : Essentials of Environmental Sciences and Hygiene for Nursing Students.
DOI : 18.2245 (参照2013年 9月27日)

〈DOIのない書籍〉 著者名 (出版年) : 書籍名. <http://www.xxxxxxx> (参照年月日)

【例】 鍛冶鉄三郎 (2015) : 津軽の工芸. <http://www.kogeior.jp/tsugaru.pdf> (参照2017年 2月16日)

4) WEB サイト・WEB ページ

著者名 (投稿・掲載の年月日) : Webページの題名. Webサイトの名称. <http://www.xxxxxxxx> (参照年月日)

【例】 浪館清史 (2019年 7月26日投稿) : 弘前編. 津軽の食文化研究会. <http://www.tsugaru/oisi/098> (参照2020年 1月 2日)

4. 投稿手続きおよび提出書類

- 1) 投稿論文は「弘前学院看護学部紀要投稿申込書」とともに 3部 (2部はコピーでも可) を提出する。査読のため, 本文にはページ数や行数を入れ込む。
- 2) 最終原稿提出時には投稿論文 2部 (1部はコピーでも可) および Microsoft Word またはテキストファイル形式で作成した電子データを保存したものを提出, または E-mail で提出する。
- 3) 利益相反申告用紙も合わせて提出する。
- 4) 提出先 E-mail アドレス : kango-kiyou@hirogaku-u.ac.jp

附則 : 2020 (令和 2) 年10月 1日施行

2021 (令和 3) 年 6月 3日一部改訂

2022 (令和 4) 年 2月28日一部改訂

編 集 後 記

お陰様で、弘前学院大学「看護紀要」第18巻は、総説1編、研究報告2編を掲載することができました。

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大で、大きな影響を受けながら、講義や実習を行ってきました。また、新カリキュラムが始まり、プライマリヘルスケア実習Ⅰ、健康づくり実習Ⅰといった新しい科目が行われ、大変慌ただしい1年でした。その中で、紀要へ投稿して下さった先生方にはお礼申し上げます。

また、今年度からこれまで使用されていた「執筆要領」を「投稿規定」と合わせて「看護紀要」に掲載させていただきました。

最後になりましたが、弘前学院大学「看護紀要」第18号の発行にあたり、査読、編集、校正の作業にご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。

2023年3月31日

弘前学院大学看護学部紀要委員会

委員長 阿部智美

弘前学院大学看護学部紀要委員会

阿部智美、佐藤厚子、大瀬富士子、館山光子、宇田宗弘

弘前学院大学 看護紀要 第18巻

2023年3月31日 印刷

2023年3月31日 発行

編 集 者

弘前学院大学看護学部紀要委員会

発 行 所

弘前学院大学看護学部

〒036-8231 弘前市稔町20-7

印 刷 所

やまと印刷株式会社

〒036-8061 弘前市神田4丁目4-5

BULLETIN OF FACULTY OF NURSING
HIROSAKI GAKUIN UNIVERSITY
Volume 18, 2023

CONTENTS

REVIEW ARTICLE

*OVERVIEW OF PRACTICAL RESEARCH ON ANGER MANAGEMENT IN JAPAN
~CONSIDERING FUTURE ISSUES FROM THE CURRENT STATUS OF SUBJECTS AND
INTERVENTION METHODS~*

FUMIE SAITO 1

RESEARCH REPORT

*THE EFFECT OF IMPROVING BALANCE FUNCTION
BY WALKING TRAINING USING TOE CLEARANCE REHABILITATIVE SLIPPERS:
A CASE STUDY OF OLD ADULTS AT HOME*

*RYOH MIURA 17
ATSUKO SATOH*

*TOE CLEARANCE REHABILITATIVE SLIPPERS FOR
OLDER ADULTS WITH FALL RISK AT HOME:
A ONE -YEAR INTERVENTION STUDY*

*ATSUKO SATOH 25
TAIKO KAWAMURA
MASUMI SAITOH*